

## 米国 フロリダ大学がカンキツグリーニング病拡散防止で住民と連携へ

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月9日

フロリダ州では、「カンキツグリーニング病(HLB)」の拡散防止は業界の指導者や科学者の仕事であるばかりでなく、地域住民も重要な役割を担っている。

園芸技術専門誌HortTechnologyに最近掲載された報告では、フロリダ大学(UF)の研究者らがフロリダ州北部の住民と協力し、HLBの拡散防止策や感染樹の識別方法について指導を行った。同大学の昆虫学・線虫学部門及び食品農業科学研究所(IFAS)の研究者らが州内各地にあるUFの普及所と連携し、この病害とその主要な媒介昆虫であるミカンキジラミに関する一連のワークショップを開催し、一般の住民に対して啓発活動を行った。

UFのザビエル・マルティーニ准教授(昆虫学)は、主な目的は、フロリダ州の住民にこの病害について理解を深めてもらうと同時に、予防的行動への参加意欲を計測することにあつたと説明する。同准教授は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「多くの人々が、柑橘類の手入れの方法だけでなく、グリーニング病とは何か、何が問題なのか、さらに自宅の樹木に何をすべきかという情報を得られたことを評価していた」と語った。

ワークショップ終了時に、フロリダ州の住民71名が効果測定のアナケートに回答し、大多数(93%)が病害の伝播経路に関する知識が向上したと回答し、89%が感染した樹木の除去に同意した。一方で、樹木のカバーや反射マルチなどの予防措置を採用する意向を示したのは約3分の1にとどまった。

**カンキツグリーニング病はフロリダ州農業にとっての脅威** フロリダ州においてカンキツグリーニング病は深刻な問題である。この細菌は主に、暖かい気候で繁殖し特に柑橘類を寄主とするミカンキジラミによって伝播される。感染した果樹は果実が劣化し、最終的に枯死する。同准教授は、「フロリダ州の柑橘類産業に甚大な影響が出ている。この病害により、柑橘類の総生産量は過去20年足らずで90%減少した」と指摘する。

フロリダ州の中部と南部では、温暖な気候の影響で被害が特に深刻である。一方、州の北部では気候が比較的穏やかなため被害は限定的であり、果樹栽培面積の縮小は拡大が続く不動産開発によるものである。ただし、同准教授によると、HLBの症例は北部地域でも確認されており、ジョージア州からの報告もある。気候変動により冬の寒さが北方へ移動していることから、今後の状況はさらに厳しくなる可能性がある。

**住民による予防の重要性** 他州であれば、HLBによる打撃は業界の問題として扱われるかも知れない。しかし、フロリダ州では経済への影響が大きく、教育機関や州政府による啓発活動を住民が良く受け入れている。ただし、住民と柑橘類の間には経済的な関係以上のものがある。同准教授は「フロリダ州では柑橘類を好み、自宅の庭に植えている人が多く、これは文化的なものである」と話す。問題は、一般の住民は必ずしも農家のように樹木を管理しているわけではないことである。殺虫剤を使わず、定期的な監視を行わず、病害や媒介昆虫の識別に関する知識も乏しい。このため、住宅地の柑橘類がHLBの溜まり場となりやすく、果実や衣服に付着し、または風に乗って、他の家や商業的果樹園にカンキツグリーニング病を拡散させる可能性がある。

**美観の重要性** UFが調査した住民たちが、HLB対策に前向きであり、教育の機会を評価していると回答したとしても、行政側が克服すべき課題が残されている。まず、ミカンキジラミの正確な識別には学習が必要である。参加者の多くは写真や顕微鏡では識別できたが、野外での他の昆虫との区別は困難であった。同准教授や学生達は死骸標本を持参して対応したが、住民が自宅の庭で識別できるかどうかは不透明である。

また、樹木ネット(樹木全体を覆う)や反射マルチなどの予防措置に対して住民たちは前向きでない。理由は簡単で、「見た目が悪いからだ。自宅の庭に柑橘類を植えた人は、それを袋で覆いたいとは思わない。『可能性』の要素も重要だ。感染した木はいずれ枯れるので除去に抵抗がないが、将来の可能性のために、しかも中南部の様に多発もしていないのに、ネットをかけるというのは説得が難しい」と同准教授は説明する。

**「多くを求めている」** 住民のある程度の抵抗感は予想される。カリフォルニア州食品農業局(CDFA)植物衛生防疫部門の責任者であり、HLBの専門家でもあるヴィクトリア・ホーンベーカー氏は、「行政は住民に多くの

ことを求めている。我々は住民の敷地に入り、柑橘類の樹木を調査させてもらう。具体的には、ミカンキジラミを探し、トラップを設置し、果実や葉を採取してHLB感染の有無を確認する」と説明する。

それでも、同氏は、住民と農業・衛生当局との連携が、州の農作物を病害から守る上で極めて重要であると強調する。同氏は「この州では非常に充実した啓発・教育プログラムを展開しており、これが大きな成果を上げていることは誇らしい」と述べ、CDFAの検査に対する住民の拒否率は0.04%未満であると指摘した。

一方、マルティーニ准教授は、同州では教育ワークショップの継続的な実施計画は現時点で存在せず、住民からの要請に応じて随時開催していると言う。次回はオーランド市近郊のセミノール郡で実施予定である。